２０２３年8月２０日　Ｎｏ.３６８１

先週の講壇から　　〝平和の器として〟

ヨハネによる福音書 13 章 34 節～35 節、使徒言行録 15 章 1 節～21 節

聖句「私があなた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい」(ﾖﾊﾈ 13:34)

伝承によればヨハネの福音書の著者ヨハネは島流しにあったパトモス島でも宣教し、その教会で晩年求められると立って一言「私たちの主があなた方を愛してくださったように、あなた方も互いに愛し合いなさい」と語るのみであったと言われています。世にあって主イエスの痛みを伴う愛によって愛された者が、イエスの愛に応えて愛に生きることによってキリスト者と教会は世にあって平和の器とされるのであります。

割礼を受けず、律法も守らない異邦人キリスト者が加わってきたとき、ユダヤ人のキリスト者の内には「彼らにも割礼を受けさせ、律法を守らせるべきだ」と強く主張し、初代教会が分裂の危機にありました時、ペトロは自分の宣教活動を振り返り、割礼を受けていないローマの百卒長コルネリウスたちにも神が聖霊を与え、教会に受け入れられたように、神はユダヤ人も異邦人も主イエスの恵みによって救われることを示された。と語り、そのまま彼らを受け入れることを主張しました。また、ヤコブも旧約の預言者たちも終わりの時には神が異邦人の中からご自分の民を選び出されると語り、これを支持しました。主イエスの痛みを伴った十字架の贖いの愛こそ救いの道を開かれたことを知っていたからです。まず、教会が平和の器とならねばなりません。初代教会はそのように歩もうとしたのでした。

マザーテレサはある婦人の「世界平和のために私たちは何をしたらよいでしょうか」との問いに「あなたがお帰りになって、まず、あなたの家族の良い家族におなりなさい」と答えました。第－テモテ５章８節に「自分の親族、特に家族の世話をしないものは信仰を捨てたことになり、信者でない者にも劣っています」とあります。キリスト者や教会は、遣わされてゆく先々で「平和の器」として用いられることを祈りとしてまいりましょう。

私自身長く牧師としての働きにかかわらせていただき、いつも心を傾けてまいりましたのは、まず、教会がキリストの体として整えられ、互いの重荷を負いあい、許しあい、助け合える関係を持ち続ける教会としてこの時代の中で歩めるように、(結構これが難しいのです) また、いくばくかでも御心が天になるように地でもなりますようにとの祈り生きる教会を目指すことでした。「光の里」の働きも、群馬町教会の開拓伝道もそのような祈りの中で導かれました。私たちが教会において、また遣わされる世において、主イエスの愛に深く愛された者として、平和の器とならせてくださいと祈りつつ励んで参りましょう。

村田元牧師